



## 「東京大学工学・情報理工学図書館蔵書印・蔵書票データベース」の構築について

工学・情報理工学図書館 梅谷 恵子

工学・情報理工学図書館では、2024年1月26日に「東京大学工学・情報理工学図書館蔵書印・蔵書票データベース」<sup>1</sup>を公開した。

このデータベースの始まりは、滝沢正巳氏による「工部大学校の書房と蔵書」<sup>2</sup>「明治時代前半の東京大学工学部蔵書の蔵書印と蔵書票」<sup>3</sup>に記録されている「工学寮旧蔵書」「工部大学校旧蔵書」「帝国大学工科大学書房旧蔵書」の内4点の画像を「工学史料キュレーションデータベース」<sup>4</sup>で2019年7月17日に公開したことであった。

その後、自館蔵書にある蔵書印・蔵書票の画像化および収集を進め、蔵書印・蔵書票に特化したデータベースとして新規に立ち上げた。

公開作業で得た成果は次のものである。

- 1) デジタル画像の特徴として、高精細で撮影することにより印影や版面を拡大して確認することが容易になった。これにより紙媒体の蔵書印譜では細かい部分が印刷では黒く潰れて目視しづらかったものも、実物のサイズが極小であっても、文字の形や意匠に用いられているモチーフに細かな違いがあることが識別でき、これまで冊子体の各種蔵書印譜では一種類として扱われていた蔵書印・蔵書票の版の違いを明らかにできるようになった。
- 2) 多数の蔵書印を収集する過程で、それが日付印とともに押印されている場合、そこから蔵書印の使用期間を絞り込みメタデータに記録するようにした。中にはこれまでの使用期間とされていた時期とは異なる特定結果を得られたものもある。
- 3) 時系列順で同組織が用いた蔵書印・蔵書票の各データを比較すると、前に使用していた蔵書印・蔵書票の意匠を継承して作成されているものも多いことが判明した。

これらは詳細をまとめて今後別の形で発表することを考えているが、「東京大学文書館ニュース」に紹介文を掲載するにあたり、「東京大学文書館デジタル・アーカイブ」により前述の蔵書印の版の違いと使用期間が裏付けられた事例を報告した

い。

「帝國大學圖書之印」<sup>5 6</sup>は、東京大学が“帝国大学”と称していた時期（明治19（1886）年3月～明治30（1897）年6月）の印である。工学・情報理工学図書館の所蔵資料においては、印刷された刊行物のみならず学生の卒業論文にも見られる。最初期のものは、帝国大学よりさらに過去の組織である工学寮や工部大学校（東京大学工学部の前身）の蔵書印がある頁の、その余白の横や上部、もしくは頁裏に追加で押されている。この時期の「帝國大學圖書之印」は単独であるが、明治23（1890）年頃から日付印と共に押印されるようになった。各資料から取得した画像を拡大して細部を比較すると、全体を通して2種類の「帝國大學圖書之印」があることが確認できた（比較的容易に識別できるのは“印”の部分である（図1））。だが、版が切り替わった詳細な時期は押印資料からの情報のみでは特定できなかった。国文学研究資料館「蔵書印データベース」内の「帝國大學圖書之印」データ<sup>7</sup>では、「蔵書印譜（早稲田大学図書館）」<sup>8</sup>が典拠資料として挙げられており、同じように2種類の「帝國大學圖書之印」が頁の上下に記載されている。下の印には「上印ヲ・・・換置セルモノ」との記載があるが、換置時期についての出典はない。

しかし、これについての回答は別の参考資料からもたらされた。「歴史の文字 記載・活字・活版」に、「東京大学・東京帝国大学印影」<sup>9</sup>として印影の図版が9枚掲載されており、8、9枚目に「帝國

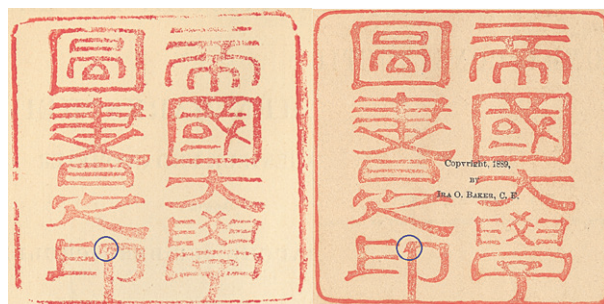


図1. 帝國大學圖書之印比較（左：不用ノ分四顆、右：右現今使用ノ分一顆）

大學圖書之印」が確認できる。典拠の“明治二五（一八九二）年『文部省往復』”を搜索したところ「東京大学文書館デジタル・アーカイブ」でメタデータ・画像共に公開されており、その内の「内閣記録局ヨリ照会ノ旨ヲ以テ本学所要ノ印影並不用ノ分共回付方文部省ヨリ照会」12, 13コマ目に“右現今使用ノ分一類”（図2）“不用ノ分四類”（図3）として見つけることができた。<sup>10</sup> これにより遅くとも明治23（1890）年4月29日には蔵書印の切り替わりがあったことが明らかになった。（なお実際の切り替わり時期はこれよりも前であったと推測される。工学・情報理工学図書館の蔵書には明治23（1890）年4月15日付の受入印と共に押印された“右現今使用ノ分一類”中の「帝國大學圖書之印」がある。）

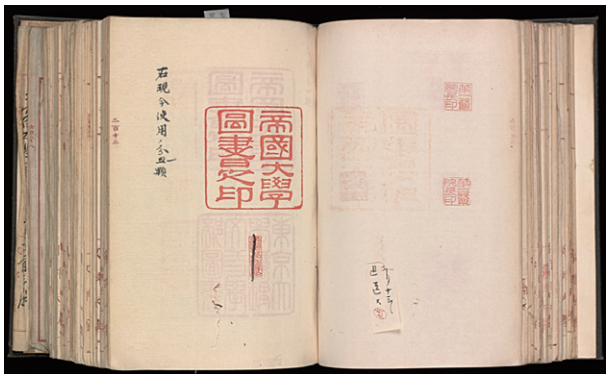


図2. 右現今使用ノ分一類



図3. 不用ノ分四類

- 1 [https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/ownership-stamp\\_db/page/home](https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/ownership-stamp_db/page/home) (参照：2026-01-23)
- 2 滝沢正順「工部大学校の書房と蔵書：工部大学校開校式について」『学問のアルケオロジー＝The archaeology of science（東京大学創立百二十周年記念東京大学展：学問の過去・現在・未来；第1部）』東京大学、1997年、214-239頁。[https://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DPastExh/Publish\\_db/1997Archaeology/02/20900.html](https://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DPastExh/Publish_db/1997Archaeology/02/20900.html) (参照：2026-01-23)
- 3 滝沢正順「明治時代前半の東京大学工学部蔵書の蔵書印と蔵書票」『技術報告：proceedings of ... Technical Symposium, School of Engineering, University of Tokyo』18回、2003年、81-84頁。<http://hdl.handle.net/2261/00074927> (参照：2026-01-23)
- 4 <https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/db/page/home> (参照：2026-01-23)
- 5 [https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/ownership-stamp\\_db/record/81e023f6-5980-4f70-be00-55a7ca38e0ad](https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/ownership-stamp_db/record/81e023f6-5980-4f70-be00-55a7ca38e0ad) (参照：2026-01-23)

- 6 [https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/ownership-stamp\\_db/record/a071ed1b-e5bb-4ccd-863b-537cba3b6b5d](https://curation.library.t.u-tokyo.ac.jp/s/ownership-stamp_db/record/a071ed1b-e5bb-4ccd-863b-537cba3b6b5d) (参照：2026-01-23)
- 7 <https://seal.dhii.jp/sealdb/detail/71750> (参照：2026-01-23) 作成者の青田寿美准教授が逝去されたため、現在は一般財団法人人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」に継承されている。
- 8 [http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/chi10/chi10\\_03869/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/chi10/chi10_03869/index.html) (参照：2026-01-23)
- 9 [https://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/dkankoub/publish\\_db/1996Moji/04/4104.html](https://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/dkankoub/publish_db/1996Moji/04/4104.html) (参照：2026-01-23)
- 10 (差) 文部省總務局文書課（受）帝國大學。内閣記録局ヨリ照会ノ旨ヲ以テ本学所要ノ印影並不用ノ分共回付方文部省ヨリ照会。東京大学文書館、明治23年4月29日、14CONTENTS. (特定歴史公文書等 > 事務 > 総合企画部 > 文部省往復 > 文部省往復 明治二十三年). (東京大学文書館：S0001/Mo095/0022) <https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/document/7cblaab3106c1bc0153d914f4ad8ce54> (参照：2026-01-23)

# 東京大学附属図書館特別展示 「東大総長 南原繁～その横顔とともに～」の開催まで ～連携による展示の立体化～

東京大学附属図書館情報サービス課（附属図書館所蔵資料展示委員会委員長） 中村恭子

2025年10月1日から11月26日に、東京大学総合図書館において、附属図書館特別展示「東大総長南原繁～その横顔とともに～」を開催した<sup>1</sup>。戦後初の本学総長を務めた南原繁に焦点を当てたもので、学内部署やご遺族の協力により、南原繁の業績と人物像を多角的に紹介した。本稿では、展示の概要と準備段階で得られた連携の効果を報告する。

## 1. 特別展示の概要とテーマ決定

附属図書館特別展示は、毎年ホームカミングデーに合わせて開催している。学内の各図書館・室は特徴的な資料を有し、なかでも総合図書館は「南葵文庫」「鷗外文庫」など70超のコレクションを持つ。特別展示は、これらの蔵書を広く学内外に紹介することを目的としており、附属図書館員で組織された所蔵資料展示委員会（以下、「展示委員会」）が、現物展示や電子展示、記念講演会などを企画・運営している。

過去のテーマは、2024年度の江戸期の俳書や2022年度の鷗外文庫などコレクションや収集者を中心に設定することが多かった<sup>2</sup>が、今回こうした傾向とは異なる「南原繁」個人へ着目した理由は二つある。

一つは、2025年が戦後80年という節目の年であったことによる。官僚の道から大学に戻った南原繁は、学究を極めつつも、軍部の大学への圧力に抗し、また同僚の教授らと終戦に尽力した。また1945年12月の総長就任後は、平和問題に関して

積極的に発言するなど、戦後日本の進路に深く関与した。

第二に、2027年に創立150周年を迎える本学にとって、南原繁が新制東京大学の基礎を築いた功績を再認識する必要があった。教養学部や教育学部、東京大学運動会応援部、東京大学出版会など、南原繁が創設した組織は多岐にわたり、本学の歴史を語るうえで欠かせない人物である。

## 2. 展示準備と学内外の協力

しかし、このような激しい時代背景や実績の多様さが故に、展示コンセプトの決定は難しい課題となった。展示委員会で議論を重ねた結果、「南原繁が東京大学において見せた姿」を中心に、本学の視点を軸にした展示を展開することとした。タイトルにはこれを反映し、かつリズム良く読み上げることによって記憶に留めてほしいという願いから、東京大学ではなく「東大総長 南原繁」とした。

展示品の準備にあたっては、例年より多くの制約があったが、同時に周囲からの協力を得ることができた。まず、図書館には南原繁の著作や南原繁に関する研究本は多数所蔵しているが、いずれも刊行本で、草稿などの一次資料は有していない。このため、まず文書館が所蔵する歴代の総長関係資料の使用を依頼したところ、快諾を得た。さらに幸運だったのは、企画の初期段階で、南原繁の長男・南原実（本学名誉教授）の旧宅で保管されていた文書の一部（以下、「南原実家保管資料」）がご遺族から文書館へ寄贈される旨を知ったことである。当時はまだ整理途中で未公開の状態だったが、文書館の厚意により、閲覧や撮影が可能となった。

そこで、主に『東京大学百年史』<sup>3</sup>など本学の大学史に係る編纂物から抽出した南原繁の業績や関連する出来事、演述（安田講堂で行った総長としての講演）を基に、総長関係資料と南原実家保管資料に当たり、関連する資料を探索した。これらの文書館資料には草稿類に加え、多数の写真が含まれており、卒業式や五月祭など、南原繁が学生と交流する姿を写したものも多く存在した。一方、こうした行事の場で南原繁が行った演述は記録集として刊行され、図書館に所蔵されている。



2025年度特別展示広報チラシ

文書館と図書館の資料を合わせて配置することで、写真と文字の双方から立体的に見えるような効果もたらされた。

もう一つの制約は、著作権の問題である。南原繁の没後から70年を経過していないことから、パネル化や電子展示等での使用にあたり、権利者の方の許諾が必要だった。そこで、文書館による仲介により、南原実家保管資料を寄贈されたご遺族（南原和子氏、南原実の御息女）に連絡したところ、現権利保有者の方への確認とともに、お手元にある資料類の展示提供もお申し出いただいた。ご自宅では、総長時代の給料袋、制服姿の若き頃あるいは孫を見つめる晩年の表情をとらえた写真、直筆の色紙など、大学では見られなかった南原繁を伝える資料を多数拝見し、悩みつつ厳選した十数点を展示することとした。

さらに、南原繁の個人像に深みを増したのが、歌人でもある坂井修一館長による選歌であった。それは「大学」「事件」「家族」「内村鑑三」の4つのカテゴリーに分かれた計11首の短歌である。これらは1首ずつ短冊に仕立て、南原繁の短歌ノートや歌集『形相』と並べることで、創作に係る展示物としての一体感を出すことができた。

これらの個人に関する一連の展示物は、メインテーマである東京大学人・南原繁のバックボーンを物語るものでもあり、一緒に鑑賞することで展示全体が完成するような構成ができあがってきた。これを踏まえて、展示タイトル「東大総長南原繁」に、「その横顔とともに」というサブタイトルを付すことで、大学と個人の両面を表現することとした。

この他、東京大学出版会には南原繁の名前を冠した「南原賞」受賞作品の展示本を提供いただき、また東京大学新聞社、東京大学運動会応援部にも協力を得ながら、全体的な展示物の選定と配置の作業にあたった。そして、その全てを一つの流れとしてまとめあげたのは、本展示の監修者である苅部直副館長（法学政治学研究科教授）の章解説である。

### 3. 来場者の反応

展示には予想以上の反響があり、来場者は1065人、またハイブリッド形式による記念講演会にも120名の参加があった。期間中は、ご遺族の来場があり、また南原繁研究会から刊行図書の展示提供をいただくなど更なる協力も得ることができた。学内関係者では、藤井輝夫総長の観覧が印象深い。

来場者アンケートには「南原総長の尽力が現在



坂井館長、苅部副館長の解説により観覧中の藤井総長（中央）

の組織の創立に及んだことを知った」「その人柄に感銘を受けた」といった声が寄せられ、諸方面からの協力のご恩に少しは報いることができたのではないかと感じている。

### 4. 連携の効果と今後

今回、文書館をはじめとする諸機関との連携に恵まれたことで、出版物と一次資料の組み合わせによる展示の立体化が実現し、また機関相互の協力関係の強化といった効果を実感した。創立150周年に向けて、本学のリソースを魅力的に発信するため、今後もこうした連携を積極的に進めたい。

### 5. 終わりに

本展示はJAPAN SEARCHのギャラリー機能を活用した電子展示で資料の一部を、UTokyo Repository上で展示会図録を公開している。ご覧いただければ幸いです。

電子展示

<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-nanbara2025>

展示会図録

<http://hdl.handle.net/2261/0002014235>

最後に、本展示の開催にあたっての多大なる協力とニュースレターでの報告の機会を与您えくださった文書館に感謝申し上げ、報告を終えたい。

- 1 令和7年度附属図書館特別展示「東大総長 南原繁 ～その横顔とともに～」の開催について。(オンライン)(引用日: 2026年1月7日.) <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20251001>.
- 2 東京大学附属図書館 特別展示会。(オンライン)(引用日: 2026年1月7日.) <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/html/tenjikai/>.
- 3 東京大学百年史編集委員会. 東京大学百年史.: 東京大学, 1984-1987.

## 業務日誌（抄） （2025年8月～2025年12月）

※（本）：於本郷本館、（柏）：於柏分館、（オ）：オンライン

- |  |  |
|--|--|
| 8/1 渡邊龍一様、渡邊洋三様、国広寿子様、大前智恵子様より資料寄贈（F0025 史料室アルバム）<br>小澤、鳥取出張（～2日）  | 10/29 書庫に害虫防除剤散布（柏）  |
| 8/4 森本、内閣府公文書管理委員会出席（オ）  | 10/30 書庫に害虫防除剤散布（本）<br>書庫の空調を停止（柏）   |
| 8/12 夏季休業（～13日）  | 10/31 元、第2回三重県公文書等管理審査会出席（オ）<br>森本、東京都公文書管理委員会出席                           |
| 8/18 森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅰ出講<br>書庫に害虫防除剤散布（本）                         | 11/4 杉本ゆま様より資料寄贈（F0336 東大闘争裁判資料（杉本昌純関係資料））                                 |
| 8/20 環境整備チームによる書架清掃（柏）   | 11/6 健康と医学の博物館展示「東京帝大の看護婦たち」開始（本）  |
| 8/22 森本、150周年記念事業企画調整委員会企画部会3館合同展示WG出席（オ）                          | 11/7 森本、「文化資源学入門Ⅲ／東京大学の埋蔵文化財と文化資源」講義（本）                                    |
| 8/25 元、第1回三重県公文書等管理審査会出席（オ）  | 11/10 森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ出講   |
| 8/26 第126回館員打合せ（柏）   | 11/17 令和7年度第3回文書館運営委員会（オ）  |
| 8/29 書庫に害虫防除剤散布（本・柏）   | 11/19 津田敦様より資料寄贈（F0284 大学関係記念品）<br>元、スイス及びフランスへ出張（～30日）                    |
| 9/2 森本、立花、百五十年史編纂室会議陪席（オ）  | 11/25 立花、教養学部資料調査<br>第129回文書館打合せ（本）  |
| 9/3 書庫に害虫防除剤散布（柏）  | 11/27 書庫に害虫防除剤散布（柏）  |
| 9/4 森本、立花、資料寄贈につき相談対応（駒場寮同窓会）（柏）<br>森本、立憲民主党議員による見学対応（柏）           | 11/28 書庫に害虫防除剤散布（本）  |
| 9/5 工学部モーター同好会OB会より資料追加寄贈（F0331 工学部モーター同好会資料）                      | 11/30 立花、仙台下張（～4日）   |
| 9/11 立花、駒場寮同窓会事務所資料調査  | 12/2 森本、東京都文書事務のDX化に向けた調査委託に関する意見照会出席                                      |
| 9/12 岡崎光子様より資料寄贈（F0335 久保田譲関係資料）<br>元、国立公文書館へヒアリングのため出張            | 12/3 元、第3回三重県公文書等管理審査会出席（オ）  |
| 9/22 資料燻蒸のため搬出（～29日）（本）  | 12/8 森本、立花、百五十年史編纂室会議陪席（オ）   |
| 9/26 研究倫理セミナー（オ）   | 12/9 立花、小野塚家資料調査   |
| 9/29 書庫に害虫防除剤散布（本・柏）   | 12/11 森本、日本赤十字社赤十字情報プラザからの来館対応   |
| 9/30 第127回文書館打合せ（本）  | 12/12 森本、150周年記念事業企画調整委員会企画部会3館合同展示WG出席（オ）<br>森本、柏キャンパス総合研究棟建物管理専門委員会陪席（オ） |
| 10/2 立花、京都不出張（～5日）   | 12/16 森本、立花、資料寄贈につき相談対応（吉田伸之様）（本）  |
| 10/6 森本、立花、百五十年史編纂室会議陪席（オ）   | 12/17 環境整備チームによる書架清掃（柏）  |
| 10/9 森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ出講  | 12/18 元、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト若手研究者発表会参加                                       |
| 10/10 宇宙線研究所・総合研究棟合同火災時対応訓練（柏）                                     | 12/19 元、第12回部局セキュリティ担当者向け研修（初級A）参加   |
| 10/14 SB06室、空調停止（本）  | 12/22 第130回文書館打合せ（柏）   |
| 10/17 森本、150周年記念事業企画調整委員会企画部会3館合同展示WG出席（オ）<br>S110室、SC105室の空調停止（本） | 12/23 小澤、全史料協関東部会第330回定例研究会参加  |
| 10/18 東京大学ホームカミングデイ出展（本）   | 12/25 書庫に害虫防除剤散布（本・柏）  |
| 10/22 防災訓練（本・柏）<br>環境整備チームによる書架清掃（柏）                               |  |
| 10/24 柏キャンパス一般公開出展（～25日）（柏）  |  |
| 10/28 第128回文書館打合せ（柏）   |  |

## 資料の公開について (2025年8月～2025年12月)

上記期間内に整理を終え、新たに公開した特定歴史公文書等ならびに歴史資料等の資料群は、以下のとおりです。  
※概要記述とアイテムリスト(目録)、既存資料群へのアイテム追加は、当館のデジタル・アーカイブからご確認ください  
(<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>)。

### 特定歴史公文書等

#### 部局

S0796 演習林地地形図・測量図等

### 歴史資料等

#### 学生資料

F0334 土田直鎮関係資料

#### 関係団体資料

F0223 白金学寮関係資料

今期間中も個人や団体から多数の資料を寄贈いただき、ありがとうございました。引き続き、東京大学に関する資料・学内刊行物のご寄贈をお待ちしています。

## レファレンスのご紹介

**Q** 坪井九馬三の読みは「くめぞう」ではないのですか。

**A** 固有名詞のヨミの特定は難しい場合がありますが、坪井九馬三に関しては、当館に寄贈された坪井九馬三関係資料(F0006)をはじめとする、当館の所蔵資料にその手掛かりがありそうです。本人が書いたと思われる履歴書(F0006/S01/0010、写真1)では、漢字表記の横に「クマザウ」と仮名がふってあります。また、東京帝国大学の教員であったので、大学の公文書で、教職員の任免に関する文書である「職員進退」(S0018/SS01/0141、写真2)に綴じられた、叙勲のための調書にも「クマザウ」と振り仮名があります。さらに、本学の規則や概要、教員や生徒の氏名をまとめて、毎年発行していた『東京帝国大学一覧』の英語版でも「KUMAZŌ TSUBOI」と記載されています。これらの資料を根拠として、当館では「クマゾウ」としています。

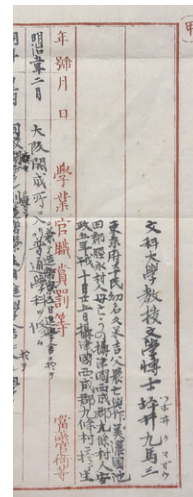


写真1

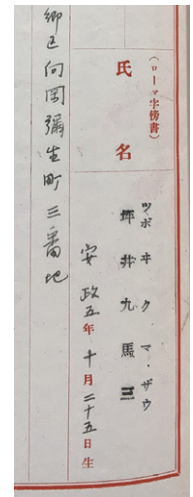


写真2

### 前号の誤りについて

『文書館ニュース』vol.75(2025年9月30日発行)の表紙に掲載した集合写真のキャプションで、「1956年頃」とあるのは誤りでした。背景に1966年4月1日に開寮した新寮が写っていることから、1966年以降に撮影されたものと考えられます。訂正して、お詫びします。

## 三 文書館Topics 三

### 戦後簿冊の修復の最適解とは

当館ではこのたび、令和7・8年度の2年計画で、重要文化財指定されている昭和24年および25年の簿冊2点の修復を行うこととした。

今回修復する資料は、質の悪い酸性紙の劣化や金属製留め具の錆による用紙腐食、といった現代資料共通の問題を抱えている。また、事務業務において文書量が膨大になるなかで個々の文書の作りや管理の仕方も杜撰になりがちで、それが文書の劣化をさらに誘発する。今回修復する簿冊のひとつも、表紙と中の用紙のサイズが合わず、用紙が表紙からはみ出しており、また大判の用紙を折り曲げて綴じているため、紙端や折山が傷んでいる（写真1、写真はすべて修復士小笠原温氏提供）。修復にあたっては、紙の劣化部分のみに細かく裏打ちを施し、錆びたステープラーは外してその穴に細い紙縫りを通して綴じ直すという（写真2）。修復士であれば当たり前になりますが、と云われたが、ステープラーの数を考えれば気の遠くなるような作業だ。

今回の当館の修復案件は重要文化財指定資料であるため、元通りの形にすることが必要であり、手厚い修復を施すこととなった。一方、日本中で、戦前戦後の紙資料の同様な劣化が無数に起こっている。これら資料の修復について、果たして残存資料数が少ない時代の資料と同様の考え方を採るべきなのだろうか。常に技術面でのベストを求めると修復できる数が限られ、最善の修復を施したわずかな資料と、まったく修復の手をつけられないほとんどの資料、という状況にならないか。現代資料の修復に関して、最も多くの資料・情報を後世に残していくための現実に即した修復のあり方の選択肢を、広く議論していく必要を感じた。

(森本祥子)



写真1  
表紙からはみ出して傷んでいる用紙

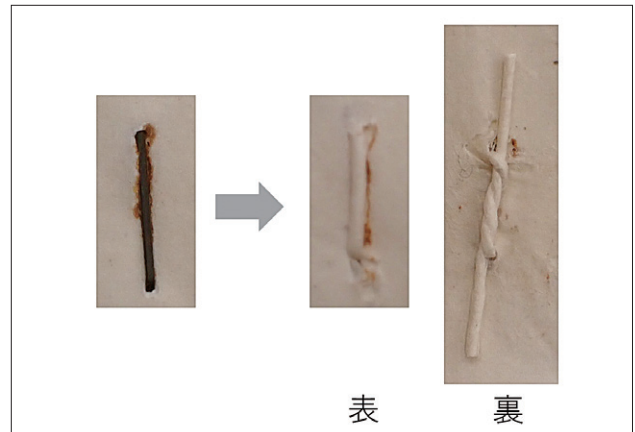


写真2  
錆びたステープラーを紙縫りに交換(修理済み資料の例より)

東京大学文書館ニュース 第76号

ISSN 0915-3284



東京大学文書館  
The University of Tokyo Archives

発行日：2026年3月31日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03 (5841) 2077 (直)

Eメール：daigakus.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

ウェブサイト：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html>

印刷所：株式会社 テンプリント

